

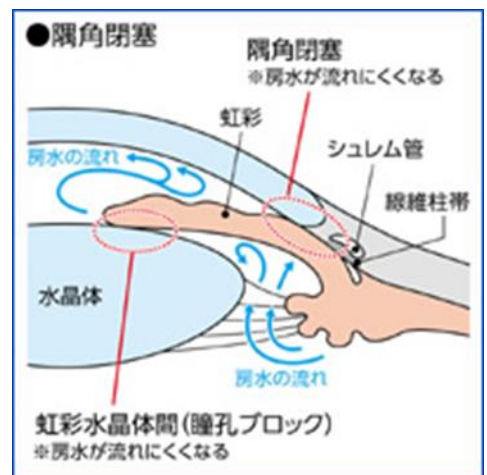
## 急性緑内障発作

## 症状

- ・目の痛み、視力低下、充血、頭痛、吐き気などが急激におこります。通常、片眼性で、50～60歳以上の女性で遠視の人に多くみられます。
- ・一般的な慢性緑内障が、気づかないうちにじわじわと視野が狭くなっていくのに対し、急性緑内障発作は名前のとおり、突然におこるものです。
- ・放置すれば、失明することもあります。

## 原因

- ・目の中には、血液のような役割をもった房水という液体が流れています。
- ・房水は、毛様体で分泌され、隅角のシュレム管という所で排泄されています。
- ・この房水の循環が適切に行われれば、眼圧は正常に保たれますが、元々遠視などで前房が浅く、虹彩と隅角が接触しやすいという構造に加え、年齢とともに水晶体が厚くなることで、隅角が閉塞し、急激に眼圧が上がります。
- ・眼圧上昇が長引くと視神経が障害されます。



目の水平断面図(各部の名称と房水の流れ)

## 治療

- ・早急に眼圧を下げる必要があります。目薬、飲み薬、点滴などを使って眼圧を下降させてから、レーザー治療や白内障手術をします。
- ・白内障手術で眼内レンズという自分の水晶体より厚みの薄い水晶体に交換することで、隅角が開放し、眼圧を下降させます。

# コンタクトレンズトラブル

## 症状

- ・目の痛み、かゆみ、異物感、充血、視力低下などがあります。
- ・細菌性角膜炎、角膜真菌症、アカントアメーバ角膜炎などの角膜感染症のほか、コンタクトレンズアレルギーを認めることもあります。

## 原因

- ・コンタクトレンズの使用法に問題のあるケースが多く見受けられます。
- ・装用時間が守られていない、コンタクトレンズをはめたまま寝てしまった、着脱時の手洗い未施行、消毒時のこすり洗いが徹底されていない、コンタクトレンズケースの汚染、ソフトレンズを水道水で洗って目に装着などが考えられます。
- ・また、ドライアイがある人では、涙液中に含まれる酸素や栄養分が目の表面にいきわたらず、コンタクトレンズ装用により症状が悪化したり、コンタクトレンズの材質そのものにアレルギー反応を起こす場合もあります。
- ・最近では、若年層を中心に、カラーコンタクトレンズによるトラブルが増えています。

## 治療

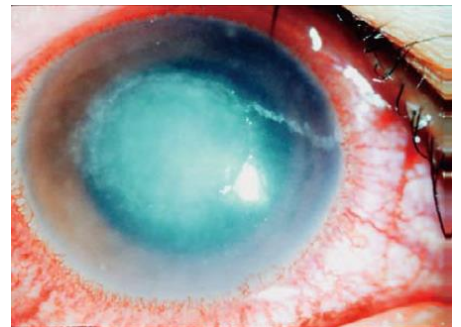
- ・自覚症状がない場合もあるので、眼科医による定期検査は重要です。
- ・異常を感じたら、すぐにレンズの使用を中止し、眼科受診をして下さい。
- ・目薬で治癒することがほとんどですが、一部の角膜感染症では後遺症を残すこともあるので注意が必要です。
- ・ドライアイやアレルギー性結膜炎のある方は、眼科医に相談して、自分に合ったレンズの選択や日頃から目薬をつけるなどの対応が大切です。

巨大乳頭結膜炎



レンズの汚れやアレルギー性変化の影響で、上まぶたの裏側に大きなブツブツが認められる

角膜潰瘍



角膜に感染をおこし、著しい混濁を来した状態

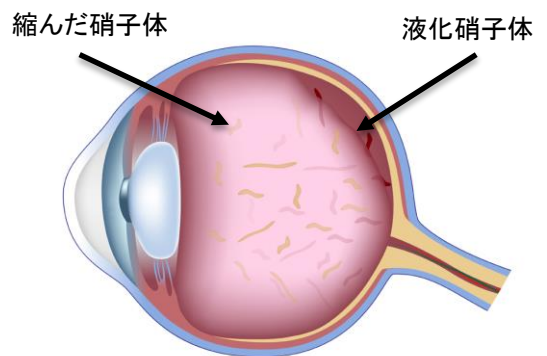
# 飛蚊症

## 症状

- ・青空や白い壁などを見た時、明るい背景で読書した時、視野の中にちらちら浮遊物が見える状態です。
- ・浮遊物の形態は、ゴマ状、虫状、カエルのたまご状、糸くず状、たばこの煙状と様々です。
- ・また、飛蚊症と前後して、目をつぶった時や暗いところで視野の端に光が走る“光視症”を自覚することもあります。

## 原因

- ・生理的飛蚊症は、病気ではありませんので治療は必要ありません。
- ・しかし、網膜などに病気があった場合には、レーザー治療や手術が必要になります。
- ・飛蚊症は自己判断せず、眼科で眼底検査を受けましょう。



## 治療

- ・飛蚊症の多くは、目の中の硝子体という所の加齢性変化によって生じます。
- ・年齢を重ねるにつれ、硝子体はゼリー状から液状に変化し、硝子体は収縮して網膜からはがれます(硝子体剥離)。
- ・その結果、萎縮した硝子体の不均一な後面が影となって網膜に映し出され飛蚊症を自覚します。
- ・しかし、中には、網膜裂孔、網膜剥離、硝子体出血、ぶどう膜炎などの病気が隠されていることもありますので注意が必要です。

# 結膜炎

## 症状

- ・充血、目やに、涙、異物感、かゆみ、灼熱感、まぶたのはれなどです。
- ・視力には影響しないことがほとんどですが、目やにや涙がひどい例や、結膜炎が重症化して角膜炎を併発すると、視力障害を起こすこともあります。

## 原因

- ・感染性結膜炎(ウイルス性、細菌性など)とアレルギー性結膜炎の2つに大別されます。
- ・アデノウイルスに感染して生じる流行性角結膜炎(はやり目)や咽頭結膜熱(プール熱)は、感染性が非常に強く、時折、大流行を起こすことがあります。
- ・アレルギー性結膜炎は、花粉症などの季節性アレルギー性結膜炎、ダニやハウスダストなどに反応する通年性アレルギー性結膜炎、アトピー性結膜炎、春季カタルがあります。



## 治療

- ・ウイルス性結膜炎には今だ特効薬はないため、細菌との混合感染を防ぐ目的で抗菌剤の目薬をつけたりします。
- ・1～2週間、強い症状が続きますが自然治癒します。
- ・学童がアデノウイルス感染症をおこした場合は出席停止が義務付けられ、登校時は医師の診断書を学校に提出する必要があります。